

Title	リセのカリキュラム改訂、2010-2012年
Author	堀内, 達夫
Citation	教育学論集. 37 卷, p.52-55.
Issue Date	2011-09
ISSN	0288-4909
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学大学院文学研究科人間行動学専攻・教育学専修
Description	

Placed on: 大阪市立大学学術機関リポジトリ

リセのカリキュラム改訂、2010 - 2012年

Revision of the Lycee's Curriculum, 2010-2012.

堀内 達夫

Tatsuo HORIUCHI

2010年1月にフランス国民教育省から「新しいリセ」が発表されて、2010年から2012年までにリセの普通・技術課程は、新しいカリキュラム（いわゆる学習指導要領）へ移行することとなった。じつに10年ぶりの大幅な改訂である。ここでは、今回のカリキュラム改訂の主旨、それに基づく新カリキュラム表を旧カリキュラム表と対比して掲げる。

2009年6月の内閣改造（第3次フィヨン内閣）によって国民教育大臣は、エグザイエ・ダルコス（X.Darcos）からリュック・シャテル（Luc Chatel）へ変わった。新文相の下で出された2010年度の教育方針（2010年3月16日付け通達）では、「リセ改革」の目標が示されているが、本資料で挙げるのは、この通達に先立って公表された「新しいリセー2010年度要覧（"nouveau lycée"2010）」および翌年度の「新しいリセー普通・技術コース、2011年度有用情報（"nouveau lycée"2011）」に掲載された改革の主旨およびカリキュラム表である。

1. カリキュラム改訂の主旨

新文相リュック・シャテルは、大衆化したリセ教育において、生徒一人一人の学業達成を高めるための基本方針を述べる。

「一世代の間に、リセはその門戸を広げて、増加するフランス青年の資格水準を高めることに貢献した。1980年の26%弱に対して、今日では同一年齢層の66%がバカロレアを取得している。しかし、そのすべ

ての目標を達成しているわけではないと認めねばならない。二つの克服すべき現実があり、毎年5万人以上の青年はバカロレアを取得せずにリセを離れており、また学生の二人に一人は大学1年次で落第している。

今、共和国大統領が抱く大志に従って、職業リセの改革に続いて、我々は普通・技術リセを改革する。我々は、あらためてその約束すべてを守りたい。成功するリセ、それは生徒一人一人を成功させるリセであり、各生徒に将来の展望を与えるリセである。

我々が望むリセは、あらゆる宿命論を拒否して、すべての生徒を高みに引き上げ、成績の良いものが卓越性を得られるリセである。

この大志を達成するために、普通・技術リセ改革について3つの目標を定めた。すなわち、より個別的、前進的で継続的な進路指導、修学全体を通じた個別学習支援、リセの時代への開放拡大である。これらの方針は、リセ当事者全体との継続的な対話の成果であり、昨年12月10日に、教育高等審議会で承認されている。」（中略）

「明日のリセは、各人の成功に役立つリセであり、我々はその全体を築く。それゆえ、わが国の青年、そのすべての将来に関わるが故に、皆さん一人一人との約束に期待する。」

出典：MEN, LE NOUVEAU LYCEE, repères pour la rentrée 2010 ("nouveau lycée" 2010), 2010.1, p.1. 同旨の内容は、

次年度に国民教育省から公表された資料にも掲載されている。MEN, LE NOUVEAU LYCEE, voies générale & technologiques : les informations utiles pour la rentrée 2011("nouveau lycée" 2011), 2011.2, p.1.

今回のリセ改革について、国民教育省ホームページ(website)掲載の「概観」によりそのあらましを知ることができる。

リセ改革の概観

I. より良き進路指導 mieux orienter

- ①より良き進路決定のためのより良き情報収集(第2級探究科目、各学年にチュータ設置)。
- ②履修途中における進路変更を可能にする(第1級に広げた共通課程、諸コース・諸科橋渡し期設置)。
- ③高等教育進学のためのより良き準備(E S, L, S科間再均衡、STI, STLの現代化・総合化)。

2. リセ普通課程における新旧カリキュラム表

普通・技術課程のうち、普通課程の新旧カリキュラムに関する対比表を挙げる。第2級(1年次)は、進路決定期と称して普通・技術両課程にとって共通課程である。

表1 第2級(1年次)の共通課程

週時間数	新	旧
フランス語	4	4(+0.5Mo*)
歴史・地理	3	3(+0.5Mo*)
外国語 1& 2	5.5	—
外国語 1 a	—	2(+1Mo*)
数学	4	3(+1Mo*)
物理・化学	3	3.5
生命・地学 b	1.5	2
体育・スポーツ	2	2
市民法律社会 ECJS	0.5	0.5
個別学習支援	2	—
個別援助 c	—	2
探究科目	1.5×2	—
週総時間数	28.5	

II. より良き学習支援 mieux accompagner

①すべての履修過程におけるより良き学習支援一週2時間の個別学習支援、必要に応じた小グループ編成、新たなに養成された教員体制。

III. より良き進学準備 mieux préparer

- ①外国語のより良き習得(IT活用、外国機関との協力、能力別教育、3カ国語学習)。
 - ②学習と生活の自覚(成績通知表への約束とボランティア記載、CV作成援助、リセ代表育成)。
 - ③教養問口の拡大(文化施設との協力等)。
- 備考："nouveau lycée" 2010および "nouveau lycée" 2011では、リセ改革の要点として、①より良き進路指導、②各リセ生へのより良き学習支援、③時代へのより良き適応が掲げられている。

出典：MEN, La réforme du lycée en un coup d'oeil, 2010. 2, 2010.4.11.閲覧

備考(表1)

Mo*=module。a.外国語又は地域語、b.以下の技術進路決定科目を選ぶとこの生命・地学履修は免除される。

ISI+ISP, ISI+MPI, MPI+PCL, MPI+BLP, BLP+PCL, BLP+SMS, 創作デザイン+文化デザイン。

c.個別援助(Aide individualisée)はフランス語と数学各1時間配分。

新カリキュラムでは、共通課程の科目の他に、随意科目(3時間)並びに芸術アトリエが受けられる。旧カリキュラムでは、以下に提供される17科目から進路決定科目として2科目を選択する。LV2,

LV3, ラテン語, ギリシャ語, 芸術, SES, IGC, ISP, MPI, PCL, BLP, SMS, EPS, EATC, 創作デザ

イン,文化デザイン。さらに、以下に提供される8科目から1随意科目を選択する。LV2(外国語または地域語), LV3(外国語または地域語),ラテン語,ギリシャ語, ESP,芸術,馬術・乗馬(農産リセ提供),職業的実践(農産リセ提供)。なお、既存の「学級生活時間」(年間10時間)は未掲。出典: MEN, LE NOUVEAU LYCEE, 2010.1, ONISEP, Guide du lycée, Eyrolles, 2006. 厳密な意味での新カリキュラム基準表(organisation et horaires)は、次の省令で示される。arrêté des 27-1 et 1-2-2010, BOs. no.1 du 4 février 2010.

表2 普通各科第1級(2年次)新カリキュラム表: S=科学、ES=社会・経済、L=文学

週時間数		S科	ES科	L科
共通科目	フランス語	4	4	4
	歴史・地理	4	4	4
	外国語 1& 2	4.5	4.5	4.5
	体育・スポーツ	2	2	2
	市民法律社会 ECJS	0.5	0.5	0.5
特別科目	数学	4	3	—
	科学*a	6	1.5	1.5
	社会・経済学	—	5	—
	文学	—	—	2
	外国語・外国文学	—	—	2
	L科のみ適用 *b	3		
	個別学習支援 *c	2	2	2
指導付き個別学習	1	1	1	
週総時間数		28	27.5	26.5

備考(表2)

*a.S科の場合、物理・化学(3h)+生命・地学 SVT(3h)またはエンジニア学(7h): : h 時間数

*b 選択必修科目は、芸術(5h), シルク芸術(8h), 数学・外国語 3, 上級外国語 1, 2, 古代言語。この他に、1~2の随意科目(最大6時間)並びに芸術アトリエを受講できる。

*c. 学習方法や進路選択援助の深化した自立的な個別学習支援(accompagnement personnalisé)。「学級生活時間」(年間10時間)は未掲。

出典: MEN, LE NOUVEAU LYCEE, 2010.1.

表3 普通各科最終級(3年次)新カリキュラム表: S=科学、ES=社会・経済、L=文学

週時間数		S科	ES科	L科
必修科目	特別 哲学	3	4	8
	特別 歴史・地理	2*a	4	4
	特別 数学	6	4	—
	特別 物理・化学	5	—	—
	特別 生命・地学	3.5*b	—	—
	特別 社会・経済学	—	5	—
	特別 文学	—	—	2
	特別 外国文学・外国語	—	—	1.5
共通科目	外国語 1 外国語 2	4	4	4
	体育・スポーツ	2	2	2
	市民法律社会 ECJS	0.5	0.5	0.5
専攻選択科目 *c		2	1.5	3
個別学習支援 *d		2	2	2
週総時間数		28	27	27

備考(表3)

*a.S科では選択科目

*b. 又はエンジニア学 8時間

*c.S科-数学, 物理・化学, 生命・地学, 情報学・数値学
ES科-数学, 政治・社会学又は専門経済学

L科-芸術, シルク芸術, 数学, LV3(LV1, LV2の上級), 古代語, 現代世界の権利と争点

*d. 各科に特有な教科に基づく深化した自立的な個別学習支援。「学級生活時間」(年間10時間)は未掲。

出典: MEN, LE NOUVEAU LYCEE, 2010.1.

表 4-1 普通 S 科第 1 級・最終級の旧カリキュラム表

週時間数		第 1 級	最終級	備考 (表 4-1)
共通科目・必修	数学	5	5.5	専攻選択は、最終級で 1 科目選択。 a. エンジニア学 (8h) 両級同時時間数、生命学・生態学 (5h) 両級同時時間数。エンジニア学を選んだ場合、専攻教育ではそれは随意科目となる。生命学・生態学は農産・普通リセで提供される。 b. 外国語又は地域語 c. バカロレア試験時、随意選択として受験できる。2005 年から最終級 (S, ES, L 各科) で除かれた。既存「学級生活時間」(年間 10 時間) は未掲。 d. ラテン語、ギリシャ語、外国語 3 又は地域語、体育・スポーツ、芸術、馬学・乗馬各 3 時間から選択。芸術は 6 領域 (造形、映画・視聴覚、芸術史、音楽、演劇、ダンス) から選択。
	物理・化学	4.5	5	
	生命・地学 a	4 ~ 8	3.5 ~ 8	
	歴史・地理	2.5	2.5	
	フランス語	4	—	
	哲学	—	3	
	外国語 1 & 2 b	2 & 2	2 & 2	
	農産・国土・市民性	3.5	3.5	
	体育・スポーツ	2	2	
	市民法律社会 ECJS	0.5	0.5	
指導付き個別学習 c	2	—		
専攻選択	数学		2	
	物理・化学		2	
	生命・地学		2	
	農産・国土・市民性		2	
随意選択科目 d		3	3	

出典：ONISEP, Guide du lycée, Eyrolles, 2006.

表 4-2 普通 ES 科・L 科第 1 級・最終級の旧カリキュラム表

ES 科 週時間数		第 1 級	最終級	L 科 週時間数		
共通科目・必修	社会・経済学	5	6	フランス語、文学	6	—
	歴史・地理	4	4	哲学	—	8
	フランス語	4	—	文学	—	4
	哲学	—	4	歴史・地理	4	4
	数学	3	4	外国語 1	3.5	3
	外国語 1	2.5	2	外国語 2*a 又はラテン語	2, 3	2, 3
	外国語 2*a	2	2	数学・情報学	3	—
	科学 (生命学)	1.5	—	科学	2	—
	体育・スポーツ	2	2	体育・スポーツ	2	2
	市民法律社会 ECJS	0.5	0.5	市民法律社会 ECJS	0.5	0.5
指導付き個別学習	2	—	指導付き個別学習	2	—	
専攻選択	数学	2	2	ラテン語	3	3
	社会・経済学	2	2	ギリシャ語	3	3
	外国語 1	2	2	外国語 1 & 2*a & 3*a	2&3&3	2&3&3
	外国語 2*a	3	3	芸術 (6 領域から選択)	5	5
随意選択科目		3	3	随意選択科目	3	3

備考：*a. 外国語又は地域語、ES 科随意選択科目 (2 科目選択)：ラテン語、ギリシャ語、外国語 3、体育・スポーツ、芸術。L 科随意選択科目 (2 科目選択)：ES 科の 5 科目に数学が加わる。既存「学級生活時間」未掲。出典：ONISEP, Guide du lycée, Eyrolles, 2006.